

3. 事業の必要性及び整備効果等

(1) 事業の必要性	<p>昭和 58 年度から平成 14 年度に県営かんがい排水事業及び畑地帯総合整備事業で整備したスプリンクラー自動化施設は、産地の高品質果実の安定生産を支えてきたが、整備後 20 年～40 年余りが経過し、老朽化により自動化施設の誤作動やパイプラインの漏水等が年々増加しており、補修費などの担い手の負担が増大している。このまま劣化が進行すると、機器の故障等が更に増加し、高品質果実の安定生産に支障をきたし、今後の産地の維持が危ぶまれる状況にある。</p> <p>このため、早急に施設の保全対策を実施し、施設の機能維持及び安全性の確保と担い手の負担軽減を図る必要がある。</p>
(2) 事業の整備効果	<p>スプリンクラー自動化施設の保全対策を適時・適切に行うことで、高品質果実の安定的な生産が確保されるとともに、補修費等に係る担い手の負担が軽減される。</p>
(3) 事業を巡る社会経済情勢等の変化	<p>本地区は、平成 30 年 7 月の西日本豪雨により多くの農地、農業用施設が被災した。また今後発生が予想されている南海トラフ巨大地震による甚大に被害が懸念されていることから、揚水機場や配水槽等の農業用施設の安全性について住民の関心が高まっている。</p>

4. 事業の進捗状況及び進捗の見込み

R5 未投資事業費	1,125 百万円 [進捗率：78.0%] (事業費換算)
(1) 事業の進捗状況	<p>本事業は平成 27 年度に事業着手し、令和 5 年度までに畑かん施設 30 ブロックの保全対策を完了しており、現在、残る 9 ブロック及び配水施設、揚水施設の保全対策を進めている。</p>
(2) これまでの整備効果	<p>令和 5 年度までに 78% (事業費ベース) の保全対策が完了し、施設の機能維持及び安全性の確保と担い手の負担軽減を図られ、高品質果実の安定生産に寄与している。</p>
(3) 今後の事業進捗の見込み	<p>令和 6 年度以降保全対策を予定している施設については、関係機関との協議や地元調整も完了しているため、令和 8 年度には事業完了する見込みである。</p>

5. 事業の投資効果（費用対効果分析）

(1) 費用便益比

土地改良事業の費用対効果分析マニュアル（農林水産省農村振興局）に基づき算出。

C：総費用＝39,318百万円

- ・建設費 1,698百万円
- ・その他 37,620百万円

※その他は共用開始後40年間に必要な再整備費－40年後の資産価額

B：総便益＝74,199百万円

- ・作物生産効果 10,127百万円
- ・品質向上効果 14,952百万円
- ・営農経費節減効果 50,787百万円
- ・維持管理費節減効果 △2,628百万円
- ・国産農作物安定供給効果 961百万円

$B/C = 74,199 / 39,318 = 1.88$

6. コスト縮減や代替案立案等の可能性

更新により撤去した既設の弁類、揚水機等の機器類をスクラップ業者に売却することでコスト縮減を図る。

7. その他

愛媛県総合計画～未来につなぐ えひめチャレンジプラン～において、「施策17：農林水産業の生産振興」に本事業を位置図付けている。

えひめ農林水産業振興プラン2021において、施策「(2) 競争力の高いえひめ農業の生産力・販売力を磨きます」に本事業を位置付けている。

8. 対応方針（素案）

本事業を『**継続**』としたい。

当該施設は、高品質果実の安定生産に不可欠な施設であり、将来にわたり産地が維持・発展できるよう、早急に保全対策を進める必要があり、令和8年度には事業完了する見込みである。